

事業報告概要書（公表版）

公表様式

1 基本情報					
施設名又はグループ名		指定管理者名及び団体概要			
文化財庭園グループ		（指定管理者名）公益財団法人 東京都公園協会 （団体の概要）都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業（指定管理者事業を含む）及び収益事業を行う。			
指定期間					
H28.4.1 ～ R8.3.31（10年間）					
2 施設名		3 収支（単位：千円）			
浜離宮恩賜庭園、旧芝離宮恩賜庭園、 小石川後楽園、六義園、旧岩崎邸庭園、 向島百花園、清澄庭園、旧古河庭園、殿ヶ谷戸 庭園		項目	金額	公園別支出額	
		収入 計	977,013	浜離宮恩賜庭園:278,715	向島百花園:80,840
		内 指定管理料	845,826	旧芝離宮恩賜庭園:109,299	清澄庭園:145,256
		訳 利用料金	131,187	小石川後楽園:141,143	旧古河庭園:130,849
		支出 計	1,270,721	六義園:213,398	殿ヶ谷戸庭園:79,878
		差引	△293,708	旧岩崎邸庭園:91,343	
		維持管理経費補填相当額	169,657	※維持管理経費補填相当額:新型コロナの影響を受けて生じた維持管理経費の不足等に対して都から支出された金額(金額確定後に左記収支表を更新)	
収支差		△124,051			
4 管理運営の概要					
<基本理念> 首都東京を代表する文化財庭園の価値を高め、未来に継承するとともに、庭園文化の魅力を世界に発信します ○庭園の価値を高める ・各庭園の価値の向上を図るため、作庭意図や歴史背景を踏まえた質の高い維持管理を実施しました。 ・維持管理技術・技能を継承するためのノウハウの蓄積と次世代を担う人材を育成しました。 ○庭園の魅力を向上する ・コロナ禍における「新しい生活様式」に則った様々な取り組みを進めました。 ・地域・企業等と連携した取組を促進し、周辺地域と一体となった魅力アップによるお客様サービス向上の取組を推進しました。 ○庭園文化を世界に発信する ・YouTubeやSNSを駆使し、来園が果たせない国内外の広範囲な利用者に向け、情報発信を行いました。 ・首都東京の文化的観光拠点としての役割を担うとともに、おもてなしの心でお客様をお迎えしました。					
5 管理状況（維持管理）					
【作庭意図や歴史的背景を踏まえた質の高い維持管理】					
・浜離宮では松の御茶屋の台風対策のため欄間透かし彫りにアクリル切り出しのはめ込みを行う吹き込み対策に取組み、景観に配慮した貴重な復元建造物を適切に保全しました。旧芝離宮では大泉水護岸の継続的な補修、「大山」の景観に入り込んでいた異質な植栽を撤去し芝張りに戻すことで、大泉水周辺の景観を向上させることが出来ました。六義園では、「木枯峰」、「吹上峯」等の築山にある園路補修による景の連続性確保、「衣手岡」の築山樹林地の手入れによる景観の修復に取組み、作庭意図を汲んだ「八十八境」の景観を再生することができました。保存管理計画書（保存活用計画）や史資料に基づき、庭園有識者に諮りながら取り組む維持管理により、庭園景観を向上させることができています。					
【維持管理技術・技能を継承するためのノウハウの蓄積と次世代を担う人材育成】					
・庭園有識者から助言を受け取り組んだ各庭園の課題改善に向けた補修や修復事業における具体のデザイン、工法、素材等については保存図面を作成し庭園工作物標準図集に収め、庭園景観を未来につなげる管理者としてのノウハウを蓄積しました。					
・熟練職員から中堅・若手職員への技術・技能の底上げを図り、庭園維持管理に関する検討会（10回）や庭園技能に関する連絡会（4回）を通じて庭園維持管理のあり方や庭園技能の継承や向上のための検討を重ね、保存管理計画書記載の課題を改善し、庭園独自の技能を伝承する百花園の「ハギのトンネル（胡枝花洞）更新」、後楽園の「大堰川修景（蛇籠更新、洲浜ぐり返し）」を「庭園技能伝承研修」（2回）において実施し、各庭園の特徴ある景観を維持するとともに各庭園に共通する庭園技術や庭園毎の個性を際立たせるために考案された特有の手入れ技能について伝承に励みました。					
6 利用者アンケート結果					
実施方法：					
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の応対
浜離宮恩賜庭園	4.9	4.8	4.7	4.8	4.7
旧芝離宮恩賜庭園	4.9	5.0	4.6	4.9	5.0
小石川後楽園	4.7	4.8	4.5	4.7	4.6
六義園	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9
旧岩崎邸庭園	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9
向島百花園	4.7	4.8	4.6	4.8	4.9
清澄庭園	4.8	4.8	4.3	4.6	4.7
旧古河庭園	4.8	4.9	4.5	4.7	4.7
殿ヶ谷戸庭園	4.9	4.9	4.8	4.9	4.8
7 入園者数の状況（単位：人）					
施設名	当該年度	分析			
浜離宮恩賜庭園	146,525	コロナ禍の影響を最も大きく受けたが、様々な情報発信により期待感を高めました。			
旧芝離宮恩賜庭園	40,412	大規模イベントの中止や、公共交通機関による移動の敬遠等が大きく影響しました。			
小石川後楽園	96,385	4、5月繁忙期や梅開花期の臨時休園に加え、花菖蒲開花期の時短開園等も影響しました。			
六義園	181,583	紅葉繁忙期の入場規制及びしだれ桜開花期の臨時休園等の影響がありました。			
旧岩崎邸庭園	39,901	屋内鑑賞がメインの文化財であり、コロナ禍での集客に大きな影響を受けました。			
向島百花園	41,077	園内花木の開花情報等、効果的な発信によりメディアや報道への露出機会が増えました。			
清澄庭園	91,193	地域の周遊性を高めることで、来園者減のリカバリーを図りました。			
旧古河庭園	105,220	紅葉繁忙期に入場規制を実施した六義園と相互連携した誘客を効果的に行いました。			
殿ヶ谷戸庭園	50,105	SNSを活用した地道な広報戦略やテレビ等での効果的な露出が功を奏しました。			
合 計	792,401				



浜離宮恩賜庭園

感染症拡大防止対策を講じたイベントの開催

事業計画No.

3-②-74
4-イ-1・2・4

評価区分

19

・コロナ禍においても庭園を楽しみたいという声に応えるため、イベントを積極的に開催しました。開催にあたっては、**感染症対策**について慎重に協議を重ね、**様々な工夫**をすることで、**感染リスクを軽減**すると共に、安心してイベントに参加して頂く事ができました。**ライブビューイングによる「お点前拝見」**や「**パネル展 東西馬術の接点・浜離宮**」「**伝統技能見学会（雪吊り）**」など、安全・安心に配慮した庭園文化の魅力を最大限に伝える取組として、多くの利用者から好評を得ると共に、ウィズコロナ・アフターコロナを見すえた、新たな観賞方法を提示することができました。



文化庁採択事業「令和の大茶会」での小池都知事



「お点前拝見」

中島の御茶屋で実施した茶道師範によるお点前をライブ配信。密を避けるために、ITを活用してお楽しみいただきました。



「パネル展 東西馬術の接点・浜離宮」

独自にパネルを作成。一方通行の順路に 2m 間隔でパネルを設置し、マスクとフェイスシールドを着用して解説を行いました。



「伝統技能見学会（雪吊り）」

鑑賞場所にカラーコーンを設置し、ソーシャルディスタンスを確保。会場も複数設置し、参加者の分散化を実施しました。

コロナ禍における情報発信～新たな庭園利用の試み～

事業計画No.

3-②-2・70・83

評価区分

20

・緊急事態宣言下における休園期間中においても庭園をお楽しみいただくため、IT 技術を用いて積極的に園内の情報を発信しました。YouTube では、来園をはたせない海外のお客様向けに、**職員による英語版「庭さんぽ」の動画を配信**しました。

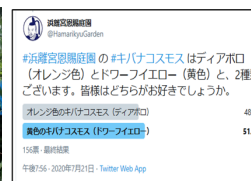
・Twitter では、**複数の企画**（動画配信・アンケート企画・普段見られない景観の配信等）を実施したことにより、フォロワー数が**昨年度比 147%**まで

上昇しました。リモートによる**七夕イベント**の実施や、園内ガイド代替として「Tokyo Parks Navi」の利用促進も行い、新たな庭園利用の試みに積極的に取り組みました。



Twitter「リモート七夕」

自宅にいなが参加できる「リモート七夕」を職員が発案。SNS を活用した新しいイベントの在り方を提示することができました。



Twitter「アンケート企画」

リモートで楽しめる参加型のアンケート企画を実施しました。この取組について、テレビ朝日の情報番組にとりあげられました。



YouTube での「庭さんぽ」動画配信

積極的な庭園利用促進の取組・地域との連携

事業計画No.

3-②-1

評価区分

20・30

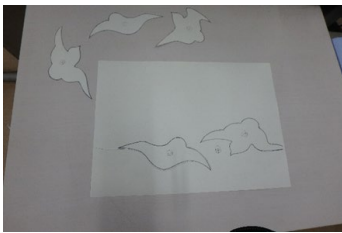
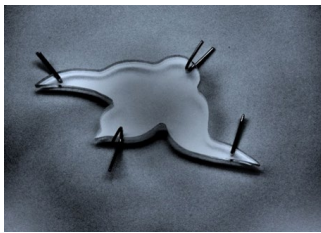


・都内への移動の自粛や海外からの渡航制限が続く中、来園者誘致を目的とした取り組みを実施しました。移動自粛緩和見込みの報道が出たタイミングで、**120 社の旅行会社**に対し、**安心してご利用頂けるよう**、園内で実施している感染症対策をまとめた資料を送付し、旅行会社の利用促進に努めました。**近隣の施設**には、令和元・2 年に**新規開業した商業施設**を中心に訪問しました。中央区観光案内所や台東区観光案内所を訪問し、リーフレット配架の**承諾を得ることができました**。

・都内への移動の自粛や海外からの渡航制限が続く中、来園者誘致を目的とした取り組みを実施しました。移動自粛緩和見込みの報道が出たタイミングで、**120 社の旅行会社**に対し、**安心してご利用頂けるよう**、園内で実施している感染症対策をまとめた資料を送付し、旅行会社の利用促進に努めました。**近隣の施設**には、令和元・2 年に**新規開業した商業施設**を中心に訪問しました。中央区観光案内所や台東区観光案内所を訪問し、リーフレット配架の**承諾を得ることができました**。



「職員による近隣施設の訪問先」
有明ガーデン、ヴィラフォンテーヌ有明、そなエリア、東京豊洲市場 PR コーナー、豊洲江戸前場下町、築地本願寺、ぷらっと築地、TSUKIJI インフォメーションセンター、タイムドーム明石、ウォーターズ竹芝、東京水辺ライン、メゾム東京、Hi-NODE、東京観光汽船（日の出、お台場）、シーライン東京、中央区観光案内所、浅草観光案内所、お台場海浜公園サービスセンター 他

松の御茶屋透かし彫りに起因する台風等の被害対策	事業計画No.	3-③-54	評価区分	2
・「松の御茶屋」の欄間に彫られた千鳥の透かし彫りには、日光が千鳥の形をした光を壁に映し出す風雅な演出を行う細工が施されていますが、前年度の台風19号の上陸時、その透かし彫りを通して室内に吹き込んだ強風が雨戸を吹き飛ばし、障子・畳・壁紙を破損しました。このような被害を発生させないため、「意匠景観を損なわない」「欄間を傷つけない」「風圧に耐えうる強度」の3点の方針を設定し、意匠になじむ加工を施した、全て形状の異なる千鳥の亚克力板を34個作製して透かし彫りにはめ込み、景観を損なわずに確実な被害対策を講じることができました。		 令和元年度 台風被害状況		
 全て形状の異なる 34 羽の型を紙に写し、切り取ります。	 型の切り抜きは、集中力を求められる繊細な作業です。	 強度のある 5mm 厚の亚克力材とステンレス鋼を採用。	 加減を調整できる指でステンレス鋼を固定しました。	
史資料に基づく馬場跡の景観向上および機能回復の取組	事業計画No.	3-③-23	評価区分	35
・「馬場跡」は、本園の本質的価値を構成する要素となる重要な場所です。『保存活用計画書』本年度は現地の調査を行い、課題を抽出、史資料に基づいた計画書を作成しました。抽出した課題の対策として「馬場跡の空間領域の明確化」「安心して歩ける馬場跡の管理」「往時の武芸鍛錬の馬場を伝える」を目標と決めました。本年度は、作成した指針に基づき、金属探知機による排水設備の調査、馬場での騎乗を想定した剪定による修景を実施しました。		 調査・計画書の作成		
 騎乗3m以下の枝を剪定するという考え方を整理し上で、剪定を行いました。馬場の特徴である見通しが改善されました。	 ぬかるみ改善のため、金属探知機により、経年の土砂で埋もれた排水施設の調査を行いました。	 馬場には新規解説版を設置。イベント時には、史資料調査を行い複数枚のパネルを作成するなど、普及啓発を促進しました。		
管理者の立場から東京都工事に関する補完業務	事業計画No.	3-③-30	評価区分	32
・東京都工事が円滑に進むように積極的に協力しました。「東京都工事の定例会」では職員が毎週出席し、園内の安全管理等について提案しています。「設計のためのヒアリング」では、管理者からの知見を提示させていただくとともに、「有識者による分科会」では、会場の準備・当日の対応協力を積極的に行いました。お客様からのご意見については、工事の必要性を丁寧に説明しました。本年度に新規設置された設備において、予測不可能な不具合等が発生した「中島の御茶屋空調設備」や「富士見山トイレ」を速やかに改修し、改善に導きました。				
 中島の御茶屋3部屋で計14か所の空調設備吹き出し口に施工、発生の原因を究明し、結露防止・シミ抜きを行い、庭園の施設として快適な空間を提供することができました。		 視認性の高い色で滑り止め塗装を計10カ所行い、安全性を確保しました。		

旧芝離宮恩賜庭園

弓道場の安全と快適さを求めた管理運営

事業計画No.

3-②-69、③-30

評価区分

2

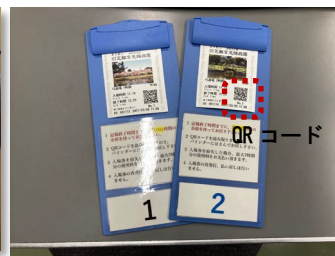
- ・（公財）全日本弓道連盟の助言を受けながら、防矢ネットを改良し、今後の矢の場外飛び出し事故防止を図りました。仕様や周知方法を、東京都と調整して、利用者へも丁寧に周知したことで改良後も苦情がなく安心して弓道場利用をしていただくことができました。
- ・コロナ禍では制限（人数・時間）をかけましたが、ピクトを使ったわかりやすい掲示でルールを周知をすることができました。また、休園期間を利用して弓道場の整備を行い、利用者から高い評価を得ました。
- ・キャッシュレス対応を機に、チケットに QR コードを組み込み、利用状況把握と延長・退場処理等がスムーズに行えるようになり、利用者サービスの向上につながりました。



防矢ネットの拡張



更衣室の除菌



リニューアル入場券



窓口モニターで利用状況を把握

地域連携の推進

事業計画No.

3-②-32・111

評価区分

30

- ・竹芝地区の魅力向上を目指す一般社団法人竹芝エリアマネジメントと共催で、東京 2020 大会に合わせて、7 月に「江戸大夜会」と題してライトアップイベントを予定していましたが、コロナ禍で中止となりました。次年度以降、東京都環境局と新規で連携して、水素エネルギーによるイベントも予定しており、関係団体とは引き続き連携開催をしていくため、定期的にオンラインミーティングを行いました。また、エリアマネジメントによるイベント「竹芝フェス」にもオンライン参加をしました。
- ・周辺地域の「芝浦一丁目まちづくり協議会」に準会員として新たに入会し、今後、地域企業との連携を図ることにより、竹芝と芝浦をつなぐ重要な地域の文化財としてさらに価値を高めて行く体制の基盤づくりができました。
- ・近隣に商業施設ウォーターズ竹芝が開業し、水上バスも新規就航したため、ウォーターズ竹芝から旧芝離宮、さらに浜離宮への周遊ポスターを作成し、園結びチケットの販売を促進した結果、多くの利用者に園結びチケットをご購入いただきました。



エリアマネジメントでの
防災訓練

コロナ禍での情報発信

事業計画No.

3-②-32・69・83

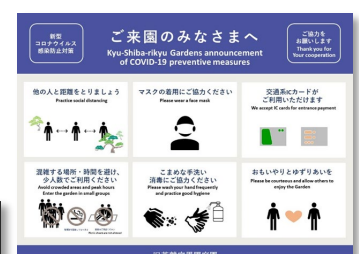
評価区分

19・20

- ・コロナ禍での開園では利用者へご利用ルール案内をオリジナルピクトと英訳をつけて作成掲示し、キャッシュレス決済の推進、トイレの特殊除菌等を通して利用者に安心してご来園いただけるような環境づくりに取り組みました。
- ・ご来園できないお客様に向けて、積極的に Twitter を活用して園内の様子をお届けしました。中でも旧芝離宮ゆかりの小田原風鈴の音の動画投稿の再生回数は 900 回を超えるなど大きな反響があり、猛暑のなかで庭園の涼を伝えることができました。
- ・港区郷土歴史館での特別展「港区と皇室の近代」では、動画の提供放映やパネル監修を行い、今後の展示会連携に向けて関係性を深めることができました。



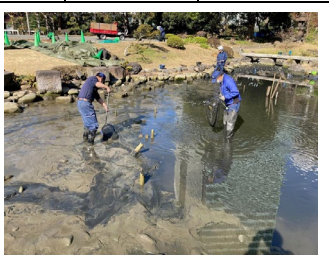
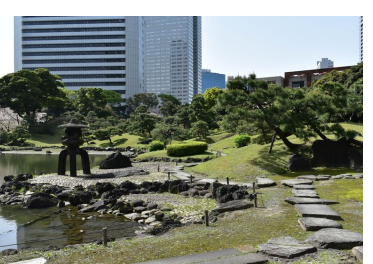
小田原風鈴の動画



英語併記のポスター



港区郷土歴史館でのパネル展

「大泉水」観賞の景観向上を図る取組み	事業計画No.	3-③-23・52	評価区分	35
・「四阿」付近の護岸において、崩落など経年劣化が顕著な「大泉水」黒ボク石積護岸の応急補修、「小池」付近では過去の芝生地管理の目土により著しく隆起した芝生地の目土部分の切り下げ及び肥大化した株物の撤去、池水の汚濁抑制のための定期的な池清掃等を実施しました。 ・黒ボク石は確保が困難な材料であるため、既存分を池から拾い上げて再利用するとともに、不足分は、伊豆大島より調達した質感や風合いが類似する黒ボク石を使用し、補修しました。「庭園工作物標準図集」に記録したこれまでの補修の仕様や内容を踏まえ、いくつかの黒ボク石を組み合わせ大きな一つの岩組に見せる手法により景観に変化を与えながら、黒ボク石積護岸の復元を実施できました。 ・芝生地切り下げは、検土杖調査により堆積地盤分を特定した上で、その部分のみを撤去し張芝復旧を行うことにより、本来の地盤高に戻しました。併せて、大泉水への景観を遮っている株物を撤去し、景観の向上を図りました。また、土舗装の園路を在来工法である二和土舗装に補修することにより、芝の侵入を防ぎ園路の線形を明瞭にしました。 ・これまでの継続事業により、黒ボク石積護岸については「西湖の堤」から「ハッ橋」までと、「小池」から「岬」付近までの護岸、延長で 375.4m へと補修済み範囲を広げました。また、芝生地切り下げにより芝生地から大泉水にかけての連続性ができ、保存管理計画に求められている池泉観賞景観「広がりある大泉水」をより感じられる景観へと近づけ、庭園観賞の視線を大泉水に誘導することができました。				
				
池清掃				
				
				
黒ボク石積護岸の補修				
				
				
芝生地切り下げと株物撤去による景観の向上				
大山の景観改善	事業計画No.	3-③-23	評価区分	35
・当庭園の築山、野筋は全て芝により保全されていますが、築山群の主景となる「大山」の南斜面の一部にはササが繁茂していました。景観構成上、唐突な印象があり、観賞上の支障となることから、ササを本来の芝地に戻し、不要な株物を撤去することにより、地形の保全及び景観向上を図りました。 ・また、石段園路と山頂の広だまりに在来工法である二和土舗装を行うことにより、足元の安全を確保し、大山を修景と利用者の安全面ともに向上させることができました。				
				
				
(芝生貼りたて)				
支障樹木の伐採	事業計画No.	3-③-48	評価区分	5
・平成 18 年度文化財庭園の支障樹木特定に関する分科会の認定指定樹木であり、築山群の稜線のつながりを分断していた実生木のケヤキ（幹周り 275cm）を伐採することにより、「広がりある大泉水」及び「明瞭な地割」を際立たせ、当庭園の本質的価値を高めることができました。また、景観の向上とともに、樹木の根が飛石園路の石を押し上げるのを防ぎ、利用者の安全とともに文化財の保全を図ることができました。				
				
				

小石川後楽園

「新しい日常」に即した情報発信～YouTube 動画配信～	事業計画No.	3-②-74、4-イ-7	評価区分	19
-------------------------------	---------	--------------	------	----

・例年、「伝統技能見学会」として多くの利用者に鑑賞いただいている「松の雪吊り」の製作過程を、コロナ禍においても、**家に居ながら楽しんでいただけるよう YouTube で動画配信**しました。気軽に見ていただけるようコメントは最小限にとどめ、大胆に編集し、全体を 5 分 34 秒に収めました。通常はお見せできないバックヤードでの準備作業を含め、**雪吊りに使用する「稲わら」や「竹」を加工する様子や利用者は立ち入ることのできない松の内側からの映像をご覧ください**、「伝統技能見学会」とは別の角度から伝統技能について発信することができました。約 400 回の視聴をいただき、Twitter では「とても良かった。いつか生で拝見します。」「このような動画公開は興味をつなぐことでしょう。」「貴重な伝統技能が末永く伝承されていきますように。」といった激励の声を多くいただくことができました。

・一方、「伝統技能見学会」も実施日時・場所を変え、三密を避けて実施しました。100 人を超える方に安全に観覧していただくことができ、**様々な利用者のニーズに対応できる好事例**となりました。



バックヤードでの作業を撮影

YouTube サムネイル

通常は鑑賞不可の位置からの映像

内庭での「見学会」の様子

「唐門」復元に係る取り組み	事業計画No.	3-②-92・118、③-21 4-自-2	評価区分	22・30・32
---------------	---------	--------------------------	------	----------

・2019 年 3 月に工事を開始した「唐門復元整備事業」に対し、多方面にわたり、協力・支援しました。工事期間中の工事業者との定例打合せでは、**利用者の立場に立って特に安全面での要望を伝え、車両動線や立入禁止区域等の調整を慎重に行い、都工事のスムーズな進捗に貢献**しました。

・2020 年 11 月に完成した「唐門」の公開に際し、東京都主催で執り行われた「プレス向け事前公開」と関係者向け「内覧会」について、都担当者と事前打ち合わせを綿密に行い、裏方としてバックアップしました。清掃やテント設営、受付準備、記念品の作成等、職員総出で対応し、成功裏に収めることができました。



唐門の埃を払い、幕と人止め柵を撤去

プレス向け事前公開

関係者向け内覧会

・同日には、小石川後楽園主催の近隣施設向け「内覧会」も開催し、警察・消防、駅、ホテル等の関係者を招待しました。新たな見どころである「唐門」を PR し、**東門開門により変化する利用者動線を踏まえた、新しい観点からの取り組みのための布石**となりました。

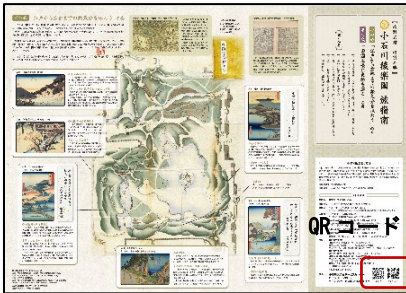
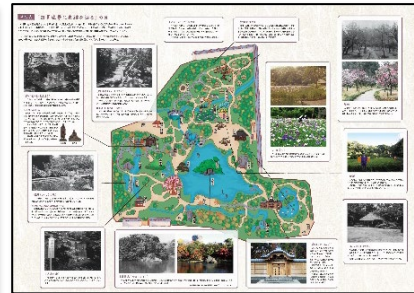
・「唐門復元記念事業」として、公開初日に唐門作成に使用された材から作った「木札」と三つ葉葵の紋が入った

特製のお饅頭を配布し、利用者に大変喜ばれました。焼印は唐門の「扁額」からデザインを起し、技能職員が手作りしました。台紙には「後楽園」の名前の由来を記し、庭園への関心を高めるよう努めました。



焼印のデザインから材の加工、パッケージ作成まで職員が対応

葵の御紋入り

テーマ別ガイドブック『小石川後楽園旅指南』の作成	事業計画No.	3-②-95	評価区分	20
・11月に復元完成した「唐門」とそれに伴い開門する「東門」のPRを主眼とし、地図形式のガイドブックを作成しました。本来、内庭から「唐門」を通り回遊するのが正式な鑑賞ルートであったことや、『江戸から京都への旅』が楽しめる庭園であること等を浮世絵や古写真、職員が作成した園内図を用いて、庭園初心者にもわかりやすく、興味を持っていただけるよう解説しました。また、ホームページとTwitterのQRコードを印刷し、最新の情報にもアクセスしやすいよう工夫しました。今後「庭さんぽ」等のガイドツアーで、小石川後楽園の魅力が多面的に伝えるツールとして活用します。	  「江戸から京都までの旅気分を味わう」の巻 「田園風景に史跡を巡る」の巻			
唐門復元・東門開門に伴うサイン及び名所案内板の設置	事業計画No.	3-②-69、③-26	評価区分	2
・唐門復元及び東門開門に伴い、東京都と連携し、各種サインを充実させました。打合せを重ね、課題を解決しながら、都と役割分担した上で、庭園鑑賞に相応しいサイン案内板、看板等を作成しました。交通案内では、特に、複数の鉄道乗り入れ駅を含め視覚的に判別しやすいよう工夫しました。また「寝覚の滝」等、内庭から大泉水へ向かう見どころの解説板の英語表記は、直訳ではない格調高く分かりやすい英訳を採用することで、より庭園文化に理解を深めて頂けるよう配慮しました。更新にあたって文字を大きくし読みやすさも向上しました。 ・新たに開門する東門の園名板作成にあたっては、都に対して材料や書体を提案し、六義園に保管されていたケヤキの板材を採用いただき、品格ある園名板となりました。園名板の前で記念撮影する姿が見られ、東門の顔として定着しつつあります。				
大堰川の修景と技能伝承～洲浜ぐり返しと蛇籠更新	事業計画No.	3-③-39	評価区分	34
・本園の主要景観の一つである大堰川周辺の川の景を、「保存管理計画」に基づき修景しました。名勝地になぞらえた河川景観一体として展開されるよう、大堰川修景として「洲浜のぐり返し」、「蛇籠の更新」とその技能伝承に取り組みました。 ・「ぐり返し」は現地にある、ぐり石を一度外して地盤を整正した後、汀（みぎわ）をいかに美しく見せるかを工夫しながら、洗浄した石を丹念に一石一石据えていく非常に根気と体力のいる作業です。蛇籠は有識者の助言を受けて縮景にあった大きさで更新し、河川景観をより一層引き締めました。 ・ベテラン職員から中堅・若手技能職員へ、全体的な景観を意識しながら細部にこだわった仕事ができるよう、技能の伝承を継続的に行い、景観向上に努めています。				
    アクセスをわかりやすく図示 英語併記の解説板 景観に馴染むデザイン 東門園名板   技能伝承研修の様子				



新しい生活様式に対応した多客期の事前予約システム導入

事業計画No.

3-②-10

評価区分

13

・紅葉期の感染症対策として、都立庭園で初めて事前予約システムを導入し、1 日の利用者数上限を 5,000 人に制限することで混雑緩和を図りました。旅行会社・マスコミ（約 200 社）に事前予約システムの導入を積極的に周知したことで、テレビや新聞等でも取り上げられ、団体利用の抑制や分散利用を推進しました。さらにはマスク着用やソーシャルディスタンス確保等の園内放送を多言語で行うとともに、駅や門前への警備員配置や駒込警察署へ警察官による定期的な園内巡回を働き掛けたことで、利用者が安心して過ごせる環境を提供し、さらに近隣の自治会長からも感謝の声をいただきました。



昨年の混雑状況



利用者同士の距離が保たれた



整理券 QR コードの読み取り



関連団体との連携による魅力向上

事業計画No.

3-②-12

評価区分

30

・明治 19 年から修復工事のため六義園へ樹木を移植してきた経緯のある「旧岩崎家別邸末廣農場」の一般公開に向け、千葉県富里市教育委員会へ名古山のヤマアジサイの剪定枝（発生材）を譲渡しました。譲渡の際に技能職員が先方へ挿し木技術を指導して全種類を発根させました。現在は末廣別邸入口のアプローチ部分へ植えられ、樹木の里帰りに貢献しました。今後も同じ岩崎家の財産として関係を継続・強化していきます。



剪定枝の譲渡

・三菱創業 150 周年特別展示「都立庭園になった岩崎家本邸・別邸」のパネル展示を行いました。三菱広報委員会等の関連団体へ協力を働き掛け、庭園の歴史資源を掘り起すことができました。さらに今回初めて英語版パネルも制作し、日本史に残る三菱財閥の歴史や六義園との結びつきを海外の方へも発信し、一層の普及啓発や利用促進に繋げることができました。



歴史パネル（日・英）展示

・近隣の東洋文庫ミュージアムとクイズラリーを実施し、地域の周遊性及び利用促進を図るとともに明治年間の知られざる六義園の歴史を紹介し、近隣の文化財施設として理解を深めていただく機会を創出しました。

コロナ禍における伝統技能見学会の実施の工夫

事業計画No.

3-②-74、③-25

評価区分

19

・日本庭園の伝統技能である冬支度「雪吊り」と「霜除け」について匠の技を披露し、庭園管理技術の普及啓発を図りました。感染症対策として、距離を保って観賞していただくため、例年は口頭で説明していた内容をセルフガイドにまとめて配布し、利用者から大変好評を得ました。

・例年では見られなかった準備段階の「藁ぼっち」や「帆柱」制作の様子をタイムラプス動画に収め、Twitter で紹介しました。職員自身が動画制作を行うことで、見どころを強調しながら新たな切り口で六義園ファンの獲得と庭園における維持管理の重要性、伝統技能への理解を深めることにつなげました。【再生回数 15,000 回以上】



幅広い年代の方が参加



内容の充実したセルフガイドを配布



タイムラプス動画を Twitter で配信



築山に配された園路の補修による回遊式景観の向上	事業計画No.	3-③-55	評価区分	2
<p>・大泉水を囲むように巧みに配された木枯峰、吹上峯といった庭園の本質的価値を構成する築山の園路について、園路舗装と築山を保全するロープ柵の補修を行い、変化のある展開の回遊式景観が回復されました。土砂流亡、過度の踏圧により不陸が生じていた園路舗装の補修により、観賞者の歩行の安全が確保されただけでなく、植込地との区画に新たにロープ柵を設置したことにより園路沿いの植栽を踏圧から保護するとともに、作庭当初からの要素が多く残る庭園の地割を明瞭に保全することができました。</p> <div data-bbox="108 421 1490 712">  </div> <div data-bbox="229 719 663 748" data-cs="2" data-kind="parent">園路舗装補修による築山回遊景観の向上</div> <div data-bbox="932 719 1366 748" data-cs="3" data-kind="parent">園路とロープ柵の補修による植栽の保全</div> <div data-bbox="932 719 1366 748" data-kind="ghost"></div> <div data-bbox="932 719 1366 748" data-kind="ghost"></div>				
ベンチの縁台化による休息エリアの魅力向上	事業計画No.	3-③-28	評価区分	2
<p>・出汐湊を望む土蔵周辺と岩崎家時代の芦辺茶屋跡において、庭園景観に馴染みにくい都市公園型のベンチを撤去し、縁台を配置しました。休息スペースの補修により庭園利用の魅力向上を図るとともに、感染症対策のためのソーシャルディスタンスの確保を可能なものとししました。縁台足元の土系舗装を補修したことで、泥濘が解消され滑りにくくなり、快適性が向上しました。さらに、土蔵周辺の植込地の地割をロープ柵により回復したことで修景がなされ、土蔵の保存活用の指針に沿った周辺環境の向上を図ることができました。芦辺茶屋跡では、ベンチ撤去後の流亡した表層舗装の補修により、その遺構の保存と「渡月橋」への視点場として魅力が向上しました。</p> <div data-bbox="108 1128 1490 1420">  </div> <div data-bbox="256 1435 608 1464" data-cs="2" data-kind="parent">渡月橋への視点場「芦辺茶屋跡」</div> <div data-bbox="1034 1435 1278 1464" data-cs="3" data-kind="parent">土蔵周辺の地割の回復</div> <div data-bbox="1034 1435 1278 1464" data-kind="ghost"></div> <div data-bbox="1034 1435 1278 1464" data-kind="ghost"></div>				
「吉野山」エリアの保全と景観の回復	事業計画No.	3-③-46	評価区分	35
<p>・作庭初期からの六義園八十八境の一つで、吉野の景を連想させる作庭意図を構成する「衣手岡」の築山樹林地の保全と景観の回復を図りました。築山全体の密林化が進行する反面、樹林を構成するサクラ、モミジ、スダジイ等が被圧により衰退している中、適切な密度となるよう中低木実生木処理、ササ、アオキ等下草の間引き手入れを図りました。結果、築山の稜線が顕れ、山々が織りなす樹林地景観は史資料に描かれた姿へ近づくことができました。築山に配された園路の補修とともに、山間の回遊時における庭園景観の魅力向上を図りました。</p> <div data-bbox="108 1783 1490 2074">  </div> <div data-bbox="687 2085 938 2114" data-cs="5" data-kind="parent">「吉野山」エリアの保全</div> <div data-bbox="687 2085 938 2114" data-kind="ghost"></div> <div data-bbox="687 2085 938 2114" data-kind="ghost"></div> <div data-bbox="687 2085 938 2114" data-kind="ghost"></div> <div data-bbox="687 2085 938 2114" data-kind="ghost"></div>				

旧岩崎邸庭園

休止中の庭園ガイドを補うツールの導入による魅力向上の取組	事業計画No.	3-②-70	評価区分	19
------------------------------	---------	--------	------	----



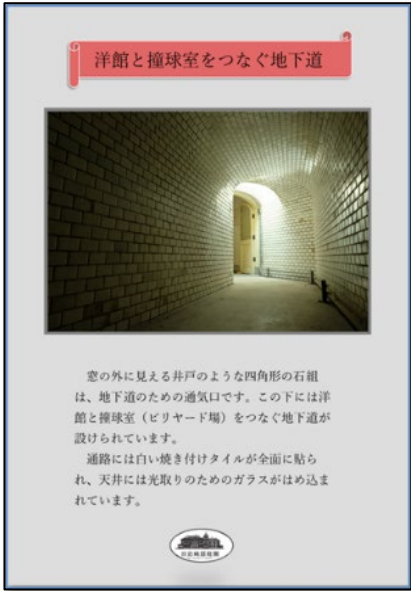
見学の合間に音声ガイドに聞き入る利用者

・感染症対策のため休止している庭園ガイドに代わり、来園者に旧岩崎邸庭園の歴史や建物への理解を深めていただくツールとして、職員手作りの「簡易音声ガイド」を導入しました。「簡易音声ガイド」は洋館・和館・撞球室の計 5 箇所に設置し、**密集を避けるためナレーションは 1 分間に凝縮し、シナリオを推敲しながら収録を重ねた結果、質の高い音声ガイドとすることができました。**立ち止まって音声ガイドに耳を傾ける利用者が多く、「読み聞かせ」効果により文化財の普及啓発を図るとともに、コロナ禍においてもサービスの水準を維持し、利用者から好評を得ることができました。

利用者のニーズに応えた地下道の情報発信と公開	事業計画No.	3-②-14	評価区分	19
------------------------	---------	--------	------	----

・巡回や監視業務において、利用者と積極的にコミュニケーションを取ることで、常に**ニーズの把握に努めており、その結果、非公開の地下道(室)見学の要望が高いことが明らかになりました。**そこで、地下道を紹介するパネルを作成し、地下道を身近に感じられる場所に展示・可視化し、利用者に高い評価を得ました。

・新型コロナウイルス感染症の拡大により、ボランティアガイドによる月に一度の「撞球室ガイドツアー」を休止していることから、職員による「撞球室ガイドツアー」を新規開催し、毎回多数の応募をいただく、人気のツアーとなりました。



利用者必見の地下道紹介パネル

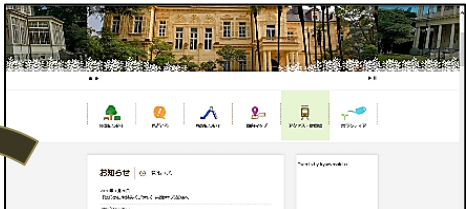


パネルの先に地下道の明り取りが見え、リアリティを感じさせる展示としました。



「撞球室ガイドツアー」

庭園利用マナーの事前周知により重要文化財を保護する	事業計画No.	3-②-82	評価区分	1
---------------------------	---------	--------	------	---



【はじめにお読みください】来園される皆様へ

旧岩崎邸庭園は建物および敷地全体が国の重要文化財に指定されています。この貴重な文化財を保護し、これからも皆さまに公開をしていく上、ならびに現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために以下の事項にご協力ください。

- 基本事項(館内)
- ①館内ではマスク着用にご協力ください。
- ②靴を脱いで観覧いただく施設ですので靴下の着用にご協力ください。
- ③断片の手すり以外の壁・柱・建具には手を触れないでください。
- ④館内での飲水や水を含むご飲食はご遠慮ください。

ホームページトップ画面で庭園利用マナーを事前周知

・かねてより、夏季に裸足で入館する利用者が多く、建物保護の観点から靴下の着用をホームページや Twitter で呼びかけていましたが、依然として裸足で入館される方が後を絶たないため、ホームページのトップ画面に「【はじめにお読みください】来園される皆様へ」と題し、庭園利用マナーを常時掲載しました。目立つ場所に掲載したことにより、目に見えて靴下を持参する利用が増え、事前にマナーを周知することにより効果的に文化財を保護することができ、利用者からは「事前の準備がしやすい。」との声をいただき、文化財保護とともにサービス向上の取組となりました。

建具補修により建造物の機能を保全し補修履歴を継承

事業計画No.

3-③-40・54

評価区分

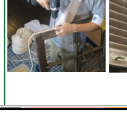
2

・重要文化財である旧岩崎邸庭園の建造物について、「旧岩崎邸庭園維持管理マニュアル」に基づき日常点検を行い、その際に発見した建具等の不具合について、文化財保護法に則った手続きを確実に行った上で、専門業者に依頼し補修を行いました。補修の記録は「建具点検・補修記録簿」にデータ化して記録を蓄積し、後世に引き継ぎながら重要文化財である旧岩崎邸庭園の建造物の保全を行うことができました。



階段室照明取付具補修



		補修日: 2020年9月 階段室のガラスグローブ固定用のビス留めに不良が見られ、ガラスグローブの取付けができていない。 	#71 03	補修日: 2020年9月 上子下子部の心も切れ。 
#2904		2020年1月保全工事（工事番号等） 〇ビス留めのセパを調整する。 元の位置に戻し、ガラスグローブを取り付ける。 		2020年1月保全工事（工事番号等） 〇心も調整。 ●心も交換（材料支給）、調整。 

「建具点検・補修記録簿」 写真と文章で補修履歴を管理

休園期間ならではの維持管理で庭園をブラッシュアップ

事業計画No.

3-③-23・55

評価区分

2

・感染症の拡大防止のため、約5ヶ月間臨時休園となりました。臨時休園期間を利用し、普段手を入られない箇所[※]の清掃や利用者動線に支障が出る園路補修等の工事を行い、庭園のブラッシュアップを図りました。洋館暖炉の清掃により、ガスヒーターの印字が明確になり、新たな史資料の発見につながりました。



ヒーターの印字を確認したところ、東京ガスミュージアムの協力により英国の「フレッチャ・ラッセル社」の製品と確認できました。



砂利流れ防止材が露出し、歩きにくくなっていた園路を補修。再開園時の景観と利用しやすさを向上させました。

木造重要文化財建造物を火災から守る防火朝礼の取組

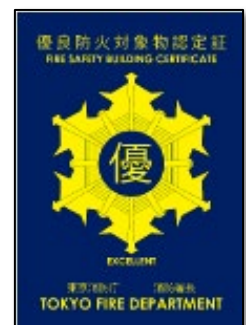
事業計画No.

3-②-15

評価区分

13

・旧岩崎邸庭園の洋館・和館・撞球室は木造文化財建造物であるため、有事に備え、迅速な初期消火への対応とスキルを身に着けることを目的に防火朝礼を継続実施しました。防火朝礼は、毎月内容を替えて実施することにより、職員・警備員ともに消火器や放水銃の位置や使い方に精通することができました。1月26日「文化財防火デー」における上野消防署との合同自衛消防訓練では、主体的に訓練内容を構築し、防火朝礼の集大成として実効性のある訓練を行うことができ、このことにより、火災について安全・安心な施設であるという「優良防火対象物」の認定を更新することとなりました。



優良防火対象物認定証



「防火朝礼」を通じて放水銃・消火器の扱いを繰り返し学び、有事への備えを強化しています。



「文化財防火デー」自衛消防訓練

向島百花園

四季の植物展示による季節感ある演出

事業計画No.

3-②-62・68・84

評価区分

19

・一年を通して、門前や窓口、園内各所に見頃の花々を鉢等で展示しました。貴重な植物を園内の主要箇所に展示することで、四季百花楽しめる「百花園」を印象付ける季節感ある演出となり、利用者サービスの充実を図りました。コロナ禍においても、ソーシャルディスタンスの目印として花鉢の設置を行い、景観を配慮した対応に、利用者からも好評でした。

・休園中には、「春の七草籠」を東京スカイツリー内の観光案内所「まち処」に設置し、百花園の季節の風物詩として紹介しました。



門前には季節の鉢を展示



職員の育てた古典菊



ソーシャルディスタンスの目印



東京スカイツリーで展示

Twitter を利用した、タイムリーな情報発信

事業計画No.

3-②-83

評価区分

20

・Twitter を利用し、季節の花々をタイムリーに情報発信しました。休園中には、「#百花園さんぽ」として動画を投稿し、春の花々咲き誇る様子を伝え、再開園後の集客につながりました。また、「萩の開花情報を毎日提供」「梅の花全種類紹介」等、自宅でも楽しんでいただけるよう工夫し、来園の動機付けを図りました。この取組は、朝日新聞でも取り上げられ、フォロワー数の増加（前年比約172%）につながりました。その他にもマスコミ各社の取材を受け、萩のトンネル最盛期の10月には前年を上回る利用者数（前年比143%）となりました。



朝日新聞掲載記事



Twitter から新聞記事に

新型コロナウイルス感染症対策を実施したイベントの開催

事業計画No.

3-②-16・17

評価区分

19

・「大輪朝顔展」や「月見の会」等のイベントは中止としましたが、季節感や風情を伝えるための展示を行いました。
・「庭さんぽ」「伝統技能見学会」は、人数制限や体温測定等、万全な感染症対策をとり、開催しました。

専門講師によるガイドイベント「野草ウォッチング」は、休園時期が延び、実施できませんでしたが、代わりにセルフガイドシートを作成し、配布することで、来年の見頃の時期にご来園いただける動機づけにもなりました。



大輪朝顔・月見台の展示



「庭さんぽ」「伝統技能見学会」



セルフガイドシート

庭園の本質的価値を構成する梅林再生の取組	事業計画No.	3-③-46	評価区分	5・35
・向島百花園では開園当初の「新梅屋敷」と呼ばれていた梅林景観を再生するため、平成22年度より史資料根拠のある100本まで増やす計画に取り組み、令和2年度まで75本のウメが植栽されました。今年度は、古絵図にある名木「寿星梅」の再生及び周辺の景観修復に関わる計画を作成しました。「寿星梅」の条件である、枝垂れ性かつ白梅の古品種「白滝枝垂れ」が園内に現存することから、史資料に基づく植栽予定箇所へ移植するため、3年間で移植を実施する計画を作成して現状変許可申請を行うとともに、準備作業を行いました。 「寿星梅」の候補である「白滝枝垂れ」 「寿星梅」が書かれた絵図 初代園主著「梅屋花品」白梅の項				
藤棚等修景棚の更新による景観と機能の向上	事業計画No.	3-③-55	評価区分	2・35
・景観向上のため、園内各所の植物棚のうち、経年劣化した藤棚1基・クズ棚1基・つる物棚3基の竹棧の更新及び、藤棚1基の柱や梁を含めた全体更新を行いました。竹棧は、来園者の目に入りやすい辺を元末両節止めとし、整った印象を与えられるよう工夫しました。 ・全体更新を行う藤棚は、庭園工作物標準図集をもとに柱や梁の丸太を一回り細いものに変更し、草庭の景観に相応しい洒脱な造りにしました。また、棚の更新に併せて園内中央の棚3基の二和土による土間補修と縁台更新を行い、来園者が木陰で安らげるスポットを提供できるよう、快適性について機能の向上を図りました。 更新したつる物棚の竹棧 藤棚・土間補修				
史資料に基づくハギのトンネル更新と技術資料の作成	事業計画No.	3-①-9、③-39・40	評価区分	34
・向島百花園を代表する工作物「ハギのトンネル」の更新作業を、技能伝承研修にて実施しました。研修では、立子に使用する竹を前回更新時より改良を重ねた治具に設置し曲げ加工する作業を行い、庭園独自の技能伝承に努めました。直営では、古写真から算出した縦横比をもとに位置出しを行い、立子設置用に作成した治具を用いて設置作業を行いました。更新作業は約3年毎の頻度で行いますが、これまで熟練職員の経験に頼る部分が多く詳細な技術資料が無かったため、今回図面や作業手順等をまとめた資料を作成し、確実な技能伝承に努めました。 治具による竹曲げ加工 立子設置用に作成した治具 ハギのトンネル技術資料 更新後状況				

清澄庭園

中心的な役割を担う近隣・地域との連携

事業計画No.

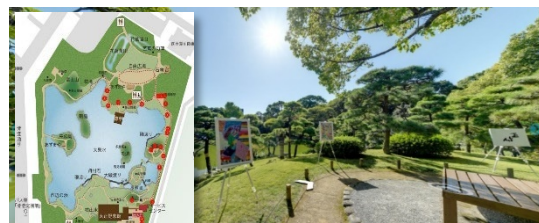
3-②-32・61

評価区分

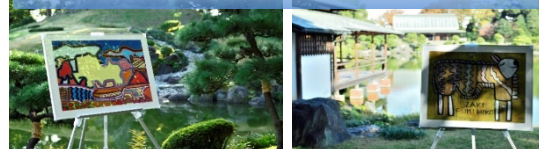
21・30

・街中に障害のある方のアートを飾る世界初の試み「**第一回 アートパラ深川おしゃべりな芸術祭**」の実施に伴い、実行委員会等と連携し、園内に**障害のある方のアート作品 25 点**を展示しました。感染症対策を含め実施方法を慎重に検討したほか、様々な利用者の来園を想定して**バリアフリールート**を中心に展示する等、「だれ一人取り残さない」ことを誓った SDGs につながる「共に生きる」社会を目指した取組みに寄与しました。結果として、コロナ禍においても、期間中の利用者数は前年同時期よりも増加（前年比 152%）し、地域を代表する施設の一つとして、**地域振興・社会貢献・庭園の普及啓発**を図ることができました。

・江東区観光協会、東京メトロ主催の「清澄白河スタンプラリー」のほか、近隣の江東区芭蕉記念館による「奥の細道サミット IN 江東スタンプラリー」に協力。**施設間の協力関係強化**につなげるとともに、**地域周遊性の向上**を図りました。



「共に生きる」社会へ『アートパラ深川』



カフェの街清澄白河のスタンプラリー



ユニークな多色刷り（奥の細道サミット）

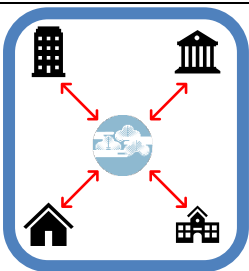
積極的な推進による施設間連携の輪の拡大

事業計画No.

3-②-64・88

評価区分

30



施設間相互割引イメージ



・平成 30 年に近隣 1 施設（深川江戸資料館）との間で開始した施設間相互割引は、令和元年に 2 施設目（江東区芭蕉記念館）を適用開始。今年度は 12 月より東洋文庫、そして調整・協議を重ね、3 月から神奈川県三溪園との割引適用を開始。**清澄庭園からの提案による施設間の周遊性の向上と協力関係強化を図った連携の輪**を広げました。

・岩崎家ゆかりの三菱史料館や三菱地所設計を訪問。所蔵資料を確認し、作庭当時の様子等、質の高い維持管理に活かせるよう、知識と歴史的価値の理解を深めました。また、同様に岩崎家ゆかりの施設である東洋文庫との相互割引開始や今後につなげていく施設間連携、庭園史料の確認等を通して**岩崎家ゆかりの施設との関係性強化**を図りました。



岩崎家ゆかり清澄庭園の史料

東京都との密接な連携による管理運営

事業計画No.

3-②-28・75

評価区分

1

・利用希望の多い集会施設について、現状や問題点を東京都と協議し、**施設の適正利用に向けて調整**を行ったほか、東京都との情報共有と直営での作業により、隣接する清澄長屋住民からの**未開園地の実生木処理**についての要望を円滑に解決しました。

・開放公園部における歩行喫煙や滞留者について連絡を密に連携し、対応したほか、東京マラソン 2021 の円滑な実施に向けて協力しました。



東京都と協力・連携した対応

継続した利用者サービス向上に向けた施設環境の充実

事業計画No.

3-②-100

評価区分

2

・夏季には、**マスクを着用した利用者の熱中症対策のため、簡易ミスト**を継続設置。また、入口付近の段差に**スロープ**を設置し、ベビーカーや車いすの利用者がスムーズに入園できるよう**バリアフリー対応**を行い SDGs の目標 11 に取り組みました。

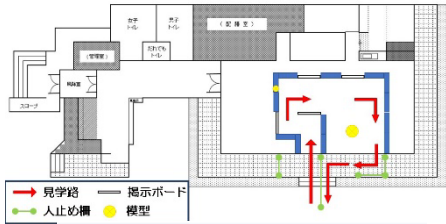
・開放公園部ベンチや庭園部野外卓を更新し、**利用者サービスの向上と施設環境の充実**に努めました。



スロープ設置



簡易ミスト設置

感染症対策と新しい日常の中での取組み	事業計画No.	3-②-69・73・74 4-イ-3	評価区分	19
・感染症の拡大防止に伴う伝統技能見学会中止を受け、集会施設での冬支度資料展示を実施しました。感染症対策のため、見学者の動線を一方通行に設定したほか、展示のために初めて制作した実物大の雪吊り模型の展示、マツの年間管理のPR冊子を更新して配布。また、SNS を利用し、園内にマツの雪吊りが設置されるまでをタイムラプス風に編集した動画を投稿する等、コロナ禍における庭園の普及・啓発を行いました。 ・集会施設に手指消毒用アルコールや換気用網戸の設置を行ったほか、トイレ手洗い器を非接触型の手洗い器へ交換。また、園内への出入り口をそれぞれ 入園用と退園用に分け利用者の動線を分離する等、感染症対策と新しい日常に柔軟に対応した。	 雪吊り先端部の実物大模型	 一方通行の動線で誘導		
花菖蒲田と大泉水の池周辺の庭園景観改善 ・清澄庭園の保存管理計画書で課題とされてきた花菖蒲田の景観改善と、大泉水の池浄化を実施しました。休園期間を利用して、花菖蒲田池の池底の堆積物除去を行い、水質を改善。また、花菖蒲田の観賞動線を妨げる植栽改善の一環として、計画的に根回しを行っていたマツの移植を実施し、菖蒲田を中心とした景観が改善されました。 ・大泉水では、アオコの発生による景観の悪化が課題でしたが、実地試験を経て効果が認められた超音波式藻類抑制装置を本格設置し、設置後1か月でアオコが消失、1年を通じて透視度が改善しました。水質改善等により池周辺の庭園景観の改善を図ることができました。	 動線確保のための分かりやすい案内誘導	 新しい日常を迎える設備		
	事業計画No.	3-③-23	評価区分	35
花菖蒲田と大泉水の池周辺の庭園景観改善 ・清澄庭園の保存管理計画書で課題とされてきた花菖蒲田の景観改善と、大泉水の池浄化を実施しました。休園期間を利用して、花菖蒲田池の池底の堆積物除去を行い、水質を改善。また、花菖蒲田の観賞動線を妨げる植栽改善の一環として、計画的に根回しを行っていたマツの移植を実施し、菖蒲田を中心とした景観が改善されました。 ・大泉水では、アオコの発生による景観の悪化が課題でしたが、実地試験を経て効果が認められた超音波式藻類抑制装置を本格設置し、設置後1か月でアオコが消失、1年を通じて透視度が改善しました。水質改善等により池周辺の庭園景観の改善を図ることができました。	 花菖蒲田池の池底堆積物の除去	 超音波により大泉水のアオコ発生を抑制		
	事業計画No.	3-③-26・28	評価区分	2
風格ある庭園エントランスへの景観改善 ・東京 2020 大会に向けて、老朽化したサービスセンターの窓口改善とサービスセンター前に設置された都市公園型ベンチを庭園景観に馴染む可動式の縁台への更新、老朽化し、はく落の恐れがある外周塀の安全性の向上のための補強工事を行いました。窓口改善に先立ち、コロナによる休園期間を利用して老朽化し雨漏りしていたサービスセンター屋根の一部葺き替えも実施。これまでの庭園エントランスのイメージを損なうことなく、1か所しかなかった売札窓口を2か所に増設し、可動式の縁台に更新することで文化財庭園のエントランスにふさわしい景観に改善するとともに、利用状況に応じた柔軟な対応が可能となり、利用者サービスの向上も図ることができました。	 サービスセンター窓口周辺の改善と縁台への更新	 外周塀の美観と安全性の向上		

旧古河庭園

コロナ禍の多客期における安心な庭園運営とおもてなし

事業計画No.

3-②-23

評価区分

19

・感染症対策として、アルコール消毒液設置のほか、通常時閉鎖している門を出口専用として開門、園内の混雑が予測される場所の一方通行化、混雑状況に合わせ警備員配置、売札周辺・ベンチ・バラ園のソーシ



滞留抑制（警備員配置）

新しい生活様式に対応した管理運営



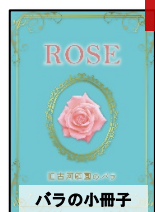
西門開門で混雑緩和



売札にマイク設置

シャルディスタンス確保や売札にマイクを設置する等工夫を凝らし、利用者が安全に庭園を楽しめる環境を積極的に整えました。さらに、イベント開催が難しい状況を逆手に取り、開花調整し秋バラの見ごろを計画的に遅らせ、紅葉の見ごろと合わせたことで園路の狭いバラ園の滞留を抑制するとともに、日本庭園への回遊性を高め、当園独自の和と洋の調和を余すことなくお楽しみいただくことができました。このような取り組みの結果、10月、11月の65歳未満の入園者数はコロナ禍においても大幅に増加しました（前年比約120%）。

・イベントは中止となりましたが、おもてなしとして「利用者自身で楽しめる庭園」を提案しました。バラの小冊子「ROSE」の提供やオリジナル新商品のローズドロップの紹介、庭園の歴史について語った「解説パネル」や「日本



バラの小冊子



ROSE ドロップ



冬支度解説板

利用者自身で楽しめる庭園

庭園の冬の設え解説板」を設置しました。利用者に安心して観賞していただける環境を提供し、ご自身で庭園の魅力を見つけて楽しんでいただいた結果、庭園利用者の満足度を高めることができました。（総合満足度 4.8）

都・北区の観光拠点として、積極的な地域振興

事業計画No.

3-②-32

評価区分

30

・洋館を管理する（公財）大谷美術館と新たに庭園と茶庭、文化財の管理、洋館外壁落下対策等について、都・北区と情報共有するとともに、こまめに打合せを行い庭園の価値向上に努めています。また、洋館の混雑時には庭園散策を推奨したり、園内放送で洋館や喫茶の利用状況をアナウンスする等、繁忙期の感染症対策も洋館と庭園が一体となって取り組みました。



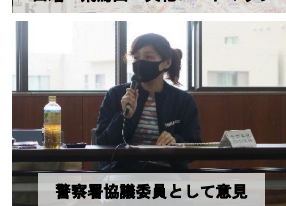
茶庭管理のアドバイス

・近隣観光施設との実行委員会形式により「文化ロードマップ」を作成しました。近隣の「渋沢史料館」をはじめとした団体と共に、北区：渋沢栄一の生涯を描く NHK 大河ドラマ「青天を衝け」の放映、新一万円札の流通等に向けて連携を強化し、地域発展の中心的存在として取り組んでいます。



田端・飛鳥山 文化ロードマップ

・警察署協議委員として、サービスセンター職員が警察との意見交換を定期的に行い、良好な関係を継続しています。繁忙期は、制服警官による園内外の巡回強化・協力により、事故、トラブルを未然に防いでいます。



警察署協議委員として意見

・紅葉期に入場制限を行った六義園と互いの園内状況を共有し、事前予約についても広報協力を行い、当日の予約状況が満了になった場合は、「園結びチケット」をご希望の利用者にその旨を速やかにご案内したほか、六義園に入園できなかった方に向けて同じ最寄り駅に旧古河庭園の案内・見どころ看板を設置し、人の流れをつくることで利用者の分散化やクレーム防止を図り、旧古河庭園の新たなファンの獲得及び地域の活性化にも寄与することができました。

SNS を中心とした庭園ファンを増やす取り組み

事業計画No.

3-②-83

評価区分

20

・上記のおもてなしと広報を連動させ、利用者自身で楽しめる庭園を提供するとともに、休園となった春バラの時期も積極的に SNS、ホームページを更新して新たなファンの獲得に注力しました。美しい写真のバラの全種類紹介をはじめ、動画で見ごろのバラ園の様子や、技能職員の仕事風景、日本庭園の楽しみ方等を分かりやすく説明して大きな反響を呼び、半年間で 3,000 人以上もフォロワーを増やしました。これらの取り組みが秋バラや紅葉期の集客につながり、コロナ禍においても安定して利用者を獲得することができました。

休園期間中の Twitter は 5,000 リツイートに迫る勢い



コロナ禍、休園期間を積極的に活用した園路整備等の実施	事業計画No.	3-③-55	評価区分	2
・庭園景観の構成要素である園路整備（土居木段2か所、土橋1か所ほか）について、休園期間を積極的に活用し、開園時には長期間の通行止め措置が難しい主要園路の補修を集中的に行いました。 また、土系舗装箇所について、在来工法に基づく適切な二和土の配合比や十分な養生期間を設けた補修を行うことで、庭園園路の美観、耐久性を向上させることができました。 ・休園期間に集中して整備を行ったことで工期を短縮し、開園時の通行規制を回避することで、利用者サービスの向上を図るとともに、足元の安全性の確保、保存活用計画に基づく景観改善、庭園の価値向上につなげることができました。	 土居木段補修 土系園路補修			
既存工作物（固定式ベンチ）の見直しによる景観・利便性の改善	事業計画No.	3-③-28	評価区分	2
・主要景観2箇所(衝立の松：心字池周辺・梅林広場)に設置され、観賞上支障のあった都市公園風の固定式ベンチ15基を撤去し、移動式の縁台に変更しました。 ・撤去台数が多かったことや主景観に面していたことから、通行規制等による利用者への負担を勘案し、休園期間中に集中して作業を行ったことで工期を短縮することができました。 ・景観に馴染むように改善するとともに、早春の梅や日差しの厳しい夏、晩秋の紅葉等の際に臨機応変に移動・活用することで、都の観光拠点である文化財庭園として、利用者サービスの向上を図り、庭園の価値向上につなげることができました。	 固定式ベンチを移動式縁台に変更 庭園景観に馴染み、状況により臨機応変に移動・活用することができる			
都要請協力の視点、隣地居住者および観賞者の安全の確保推進	事業計画No.	3-③-21	評価区分	32
・震災対策・苦情防止等の観点から、庭園外周の老朽化した万年塀の補強工事や外周隣接部の計画的な樹木剪定（高木）を行い、マンション等隣地居住者および利用者の安全確保を徹底しました。施工前にマンション管理組合例会にて工事説明を行う等、近隣居住者に丁寧な対応を行うことで工事を円滑に進めることができました。また、洋館(管理者：大谷美術館)の外壁剥落防止措置に関する対応協力を行い、文化財の保護や安全・安心な庭園空間を提供するよう努めました。丁寧な対応により、苦情を未然に防ぐとともに対応後の事故の発生はゼロとなりました。	 震災への備え、隣接マンションとの境（万年塀）を補強 外周の計画的な剪定を実施し、台風等による被害を未然に防止			

東京都・大谷美術館・専門家による調査

殿ヶ谷戸庭園

コロナ禍における効果的な情報発信による庭園文化の普及・啓発	事業計画No.	3-②-74・83 4-イ-7	評価区分	19・20
-------------------------------	---------	--------------------	------	-------

・コロナ禍における「伝統技能見学会」の実施について、協議を行った結果、ソーシャルディスタンス確保の観点から困難であると判断し、平日に作業を行うとともに、代替として、作業日にはパネルの展示を行いました。作業中に利用者が滞留しないよう、**パネル展示への誘導案内を設置し**、分散利用を図りました。



パネル展示への誘導案内



動画による伝統技能の紹介

・SNS を用いて、使用した道具や動画による作業の紹介を行い、投稿の際には「#殿ヶ谷戸庭園の冬支度」というハッシュタグを使用し、閲覧時に関連した投稿を見つけやすくするための工夫を行いました。通常の動画投稿の再生回数が平均 700 回程度に対して、伝統技能に関する投稿は**平均 1,300 回程度、多いものだと 1,600 回を超える**等、閲覧者へ伝統技能を発信することができました。

メディアを利用した情報提供	事業計画No.	3-②-81	評価区分	20
---------------	---------	--------	------	----

・季節の花々の情報や庭園の様子についてメディアを利用した情報提供を行いました。TBS ラジオ「たまむすび」にて庭園の歴史と花の開花状況についてセンター長が紹介を行ったほか、日本テレビ「音のソノリティ」、テレビ朝日「グッド！モーニング」等、特に紅葉期は日本テレビ「ぶらり途中下車の旅」、テレビ朝日「東京サイト」、テレビ東京「東京 GOOD!」と集中的に情報提供を行い、集客につなげました。



センター長による案内

・電話での問い合わせ件数が前年度 0 件だったキチジョウソウ（吉祥草）が、メディアでの紹介後に 1 日に 10 件以上に増える等、来園の動機付けを図りました。



庭園の特徴ある地形の紹介



キチジョウソウ

・特に繁忙期である紅葉期においては、前年を上回る利用者数（前年比 106%）となりました。

コロナ禍における施設管理の実施	事業計画No.	3-③-30	評価区分	13
-----------------	---------	--------	------	----

・感染症対策のため、竹の発生材や山野草を用いてソーシャルディスタンスを意識できるように細工物を作成し設置したところ、庭園景観を損ねることなく、安心してご利用いただくことができ、利用者から好評を得ました。



竹と山野草を用いた細工物

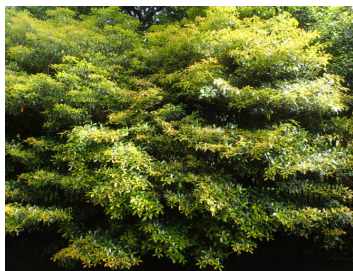
・集会施設「紅葉亭」においては、3 密防止として換気を行うために**網戸の設置**を行い、利用後には毎回アルコール消毒を実施するほか、備品の湯呑みについても 30 客から 15 客に減らして設置し、利用者が直接口を付けることから、漬け込み消毒を行っています。**次枠の利用者対応として消毒済みの 15 客に交換・設置**することで次の利用者が安心して利用できるよう努めています。



網戸設置



消毒済みの湯呑み

馬車道の修景を目的とした計画的な樹木管理と SNS での情報発信	事業計画No.	3-③-23・44	評価区分	5・35
・保存管理計画書に基づき、別荘時代の遺構として、モッコク並木の線形・幅員・高さを維持するため、計画的に枝の切り戻しを行い、庭園内部が露にならないよう、適度な葉透かし具合を保つ自然樹形で仕上げました。園路のコケと雑草の除去や整地、樹木の下草整理等、全体的な手入れを通じて、往時の馬車道を思わせる別荘導入部としての演出を行うことができました。 ・SNS を活用して、殿ヶ谷戸庭園の馬車道の特徴や手入れのこだわりをわかりやすく5つの項目に分けて投稿したところ、約 32,000 件の閲覧数があり、美しいと激励の言葉をいただく等、庭園の魅力を広く発信することができました。			遮蔽機能を維持したモッコク剪定	
			馬車道の全体的な手入れによる演出	
データを活用した野草育成の環境づくりと充実を図る継続栽培	事業計画No.	3-③-49	評価区分	5・6
・紅葉亭横のコナラ林に隣接するエリアは裸地化が進み、元々自生していた山野草が著しく衰退したため、新たな野草観賞エリアの創出を目標に、コナラやハギ、ロウバイ等の移植による日当たりの調整や、耕運や落葉敷きによる土壌改良を実施して、山野草を移植する環境を整えることができました。 ・希少種をはじめとする庭園内の山野草の保全を行うため、昨年から継続して行っている種子栽培に加え、新たな栽培方法として葉挿しを取り入れ、今年度は別途 10 種の栽培を行いました。 ・蓄積したデータを基に前年から育成していた種や園内で増えた種、利用者から見えにくい箇所にある種を選定し、山野草エリアの充実と拡大を図るため、それぞれの環境にあった場所で移植と補植を行い、3 月には全ての種での芽吹きを確認ができました。			山野草の育成環境を整える中低木移植	
				
	葉挿し作業			
利用者サービス向上のための看板補修	事業計画No.	3-②-69、③-26	評価区分	2
・園内各所にある解説板の更新を行いました。デザインを合わせ、色調を主屋と同じにすることで、庭園全体に統一感が生まれ、名勝庭園にふさわしい風格と落ち着きをもたらすことができました。 ・国分寺崖線や湧水、鹿威し等庭園独自の魅力を英語で解説したことにより、外国人来園者に庭園への理解をより深めていただけるよう努めました。 ・継続して行った看板補修工事が本年度で完了し、園内すべての看板が更新されました。利用者導線を考慮した看板配置の見直しや情報の集約、ピクトグラムの使用、英語表記を含む利用案内、歴史や庭園植物の紹介の掲示等、多様化するニーズに対応すべく利用者サービスの向上を図りました。			崖線と湧水の解説板ー庭園の地形的魅力を図とともに紹介	
			次郎弁天池の解説板ー小型化し位置を変えることで庭園景観を改善	